

＜クリスマス・ドロップ作戦2023＞ 多国間の絆を育む国際オブザーバー *International observers in multinational harmony at Operation Christmas Drop 2023*

December 12, 2023

By Tech. Sgt. Taylor Altier
374th Airlift Wing Public Affairs

グアム・アンダーセン空軍基地発一クリスマス・ドロップ作戦2023(OCD 23)は、人道支援の空中投下を通してクリスマスの喜びを広めるこれまでのミッションの域を正式に超えた。小さな慈善活動として始まったこの作戦は、地域の安全保障と人道的協力の取り組みを象徴する多国間共同訓練へと発展した。

米空軍第36遠征空輸中隊の指揮のもと、OCD 23ではOCD史上新たなマイルストーンとなる態勢がとられ、支援を必要とする島民の生活の向上に寄与する米国、日本、韓国に加え、今回初参加となるカナダのC-130JスーパーハーキュリーズとC-130Hハーキュリーズとその乗員が結集した。

1952年から始まったクリスマス・ドロップ作戦は、国防総省の人道的・災害救援の空輸活動としては最も長い歴史を持ち、ミクロネシア連邦とパラオ共和国の58の島々に住む島民2万人以上に恩恵をもたらしている。

オーストラリア軍とフィリピン軍の隊員も、航空機整備や投下物資梱包などの地上作業に貢献し、OCDの包括的な協力体制を体現した。一方で、今年のミッションで極めて特徴的だったのは、ドイツ、インドネシア、マレーシア、イギリス、バングラデシュ、モンゴル、ネパール、オランダ、スリランカ、タイから参加した国際オブザーバーの存在だ。

「ここでの経験は実に素晴らしかった。これほど大きなスケールになるとは思いもしなかった」とネパール陸軍特殊部隊のビクラム・グルン大佐は作戦を振り返り、「クリスマス・ドロップのメインとなるミッションは想像以上に感動した。C-130の低空飛行とミクロネシアの島々への空中投下は、特に貴重な経験となった。ここに来る機会をくれた米空軍に感謝したい。故郷にいるような気持ちだった」と語った。

OCD23の国際オブザーバー・プログラムは、多国間による人道支援作戦の場で、世界中の国々が部隊間のスムーズな連携を直に見るひとつのプラットフォームだと太平洋空軍A5I支部長・国際問題戦略・計画担当のピリー・ハフマン中佐は話す。

「このプログラムは、各国が共に学び、協力し、人道支援に参加する特別な機会だ。今年、オブザーバーたちは米空軍とカナダ空軍とともに飛行した。年々発展するクリスマス・ドロップ作戦は、インド太平洋における相互運用性の重要性を意識させるものだ。国際的な連携強化を図ることにより、この地域で強さ、熟練性、団結性といった面で一段と卓越したチームを築くことができる」とハフマン中佐は語った。

このプログラムは、米空軍とパートナー国の作戦上の卓越性に注目するだけでなく、人道支援・災害救援活動に内在する課題と成果について理解を深めるものでもある。

「OCD23の国際オブザーバー・プログラムは、最高の体験だった」と、第36戦術顧問中隊航空アドバイザーのデイヴィッド・リギンズ技能軍曹は述べ、「参加各国と関係を築き、相互運用性の強化を図った。これこそ航空顧問として大事な部分だ。クリスマス・ドロップのような作戦は他に類を見ない」と振り返った。

米空軍とその同盟国、そしてパートナーの国際的な協力と不断の取り組みによって、OCDはその連携力と共有する人間性を実証した。

オランダ空軍航空機動司令部のニールス・ヴァン・ベルゲン大尉は、「OCDは、国際パートナーとの協力を目の当たりし、チーム丸となって世界を保障する太平洋の将来の形を見ることのできる素晴らしい機会だった。この機会に心から感謝するとともに、将来また、貨物や人員、飛行の任務で役立てることを願っている。そして、クリスマス・ドロップ作戦がこの先何十年にもわたって続いていくことを願っている」と語った。

